

会 議 録

会議の名称	令和2年度第1回茨木市総合教育会議
開催日時	令和2年10月19日(月) (午前(午後) 2時00分開会) (午前(午後) 3時30分閉会)
開催場所	市役所南館8階 中会議室
議長	福岡 洋一(茨木市長)
出席者	福岡 洋一(茨木市長) 岡田 祐一(教育長)、武内 由紀子(教育長職務代理者)、 片山 正敏(教育委員)、篠永 安秀(教育委員)、 堀村 佳奈子(教育委員) 【6名】
欠席者	なし
事務局職員	河井副市長、井上副市長、秋元企画財政部長、岡こども育成部長、 小田教育総務部長、加藤学校教育部長、玉谷教育総務部次長、青木学校教育部次長、 西村教育総務部副理事、岩崎政策企画課長、堤学務課長、 新川教育センター所長、森本政策企画課長代理、谷口教育政策課係長 【14名】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 開 会 (2) 市長あいさつ (3) 報告案件 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果について (4) 協議案件 1 with コロナ禍における教育のあり方について 2 ICT(GIGAスクール構想)について 3 中学校給食センターについて (5) その他 (6) 閉 会
配布資料	(1) 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果 (2) withコロナ禍における教育のあり方について (3) ICT(GIGAスクール構想)について (4) 中学校給食センターについて
傍聴人	1名 1

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開会</p> <p>ただ今より「令和2年度 第1回茨木市総合教育会議」を開催する。 本日は傍聴者が1名おられ、会議は原則公開としており、既に傍聴者の皆さまには、入室していただいている。</p>
福岡市長	<p>2 市長あいさつ</p> <p>教育長並びに教育委員の皆様方には、日頃から茨木市の教育行政の推進にご尽力いただいておりますこと、また、新型コロナウイルスが流行する中、大きな混乱もなく、子どもたちのために一丸となって力を尽くされていることに、深く感謝を申し上げます。未来を担う子どもたちのために、活発な意見交換ができたかと考えている。</p>
福岡市長	<p>3 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果について（報告案件）</p>
福岡市長	<p>「茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果について」、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>【茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果について説明】</p>
福岡市長	<p>何か、ご質問、ご意見等は。</p>
井上副市長	<p>施策「(2)「生きる力」を育む教育を推進する」の取組「②「豊かな心」の醸成」において取組評価が令和元年度はaからbに落ちているが、理由は何か。</p>
事務局	<p>こちらについては、「自分力」という指標を設定しており、令和元年度は平成30年度と比べ実績値が下がっているため、bとなっている。取組が劣っているということではない。</p>
福岡市長	<p>実績値が落ちたということだが、岡田教育長の見解はどうか。</p>
岡田教育長	<p>こちらについては、子どもたちの心の問題が大きく関係し、アンケートの結果を評価に反映させることから、アンケートの時期や内容で変化するため、数値として評価しづらい項目である。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	他に何か、ご質問、ご意見等は。〈意見なし〉
福岡市長	報告案件については以上とさせていただきます。
福岡市長	<p>4 (1) with コロナ禍における教育のあり方について (協議案件)</p> <p>次に、協議案件の「with コロナ禍における教育のあり方について」、事務局から説明を求める。</p>
事務局	【with コロナ禍における教育のあり方について説明】
福岡市長	事務局から説明があった。各委員のみなさま、何か、ご意見等があればご発言をお願いします。
堀村委員	<p>コロナ禍という非常事態の中、教育委員会として、生徒にできる限り寄り添って対応してきた。オンライン授業については、児童・生徒が視聴できる環境を随時整備した。また、一人一人、電話や訪問も行い、子どもたちの状況を確認するなどして、「一人も見捨てへん教育」が実践されたと感じている。</p> <p>順調に進んではいるが、やはり子どもたちにストレスがかかった状況が長期化してきており、経済状況が変化した家庭もあるため、今後も子どもたちの変化や様子をきめ細やかに把握できるように努めていきたい。さらに、現場の先生方も慣れない対応が続いて負担がかかっているため、先生方に対するメンタルチェックや負担軽減策も考える必要がある。</p>
篠永委員	<p>感染症について、リスクを0にすることは難しいため、備えられるだけ備えてリスクを下げるのが基本であると考えている。</p> <p>休校措置について、一部では、感染拡大を阻止する目的ではあまり良い策ではなかったのではないかという声もあるが、まだ結論として評価するのは時期尚早ではないか。少なくとも、子どもたちが家にいるという状況が、保護者も家にいるという状況を作ったという意味では、感染拡大の予防になった可能性はある。ただ、やはり先生方のご負担は大きかっただろう。</p> <p>春の対応では、オンライン授業を素早く実施することができた。この経験を活かし、「GIGA スクール構想」についても、柔軟に対応したいと考えている。</p> <p>学校検診については、保健の先生が学校医、学校歯科医、学校薬剤師等と連絡をとりながら、対応していただき、また、保育所については、本感</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
片山委員	<p>染症の第一波の時期も開いており、こども育成部の方々や、現場の保育所の方々も、大変な状況の下で動いてくださっていた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に限らず、今後新たな感染症が流行する可能性もあるため、今回の経験を活かし、このような非常事態に対応する体制を整備することが重要である。</p> <p>本感染症により、子どもたちが巣ごもりの生活を強いられ、生活習慣や学習習慣の乱れが危惧される中、見守りコールやオンライン授業等の対応を素早く行うことができ、危機管理対応能力が発揮されたと思う。そのように学校から各家庭に向けて対応を行った結果、不登校の児童生徒が増加しなかったとの報告を受けている。先ほどの意見にもあったが、今回の経験を活かし、今後の対応へと繋げたいと考えている。</p>
武内教育長 職務代理者	<p>春に入学した子どもたちにとっては、先生やクラスメイトの顔もよく知らないままの状態での休校となり、大変不安な思いをしたと思う。子どもたちだけでなく、先生方も大変な思いをされただろう。</p> <p>オンライン授業について、「一方通行」になっていないかが気がかりなところで、子どもたちがどう受け止めているかを把握するのが難しいのが現状である。また、低学年の子どもたちに関しては、オンラインの環境が整備されていたとしても、一人で学習するというのは難しく、その場合、保護者が見守ることになり、負担となることが課題である。</p> <p>今まで当たり前として行っていたことを変えていくことは簡単なことではないが、ハード面や、教育内容を充実させるにはどうしたらよいか考えていきたい。</p>
福岡市長	<p>SNS の普及により、保護者の方へ情報が伝わるスピードも速くなり、悪い噂もすぐに広まることから、学校の考えを早く適切に伝えることが求められる。市長部局側も保護者の方々や地域の方々を不安にさせないように、適切な情報発信に努めたい。</p>
福岡市長	<p>それでは、本案件については以上とさせていただきます。</p>
福岡市長	<p>4 (2) ICT (GIGA スクール構想) について (協議案件)</p> <p>次に、協議案件の「ICT (GIGA スクール構想) について」、教育委員会の考えをお聞かせ願いたい。</p>
堀村委員	<p>令和3年4月からの運用ということで、ハード面の整備はもちろんのこ</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
篠永委員	<p>と、中身をどうしていくか今後考えていく必要がある。一人一台のタブレットの配布が実現することにより、子どもたちの学習の幅が広がるだけでなく、先生方の負担軽減も図ることができると考えており、様々な可能性が生まれることが期待できる。クラウド上に自分の学習の記録が保存される機能が存在するとも聞いており、非認知能力の向上にもつながるのではないかと考えている。</p> <p>高学年の子どもたちは、オンラインの環境が整備されていけば問題ないと思うが、学習習慣がついていない低学年の子どもたちに向けて、やり方を考える必要がある。また、すべてをタブレットのみで、教育の手段として完結させるというのは困難で、あくまで代替手段のひとつとして捉えている。ただ、感染症対策以外の場面でも様々な活用が期待できる。例えば、不登校や、長期療養を必要とする病にかかっている子どもたちの学力維持や、災害時において避難所での学習に活用することも可能性として期待できる。</p>
片山委員	<p>授業で理解できなかった子も、タブレットで動画を見て復習することができ、茨木市が掲げる「一人も見捨てへん教育」の方向性にも沿っている。また、小さな小学校が他の小学校とオンラインで合同授業を行う等、今後さらに使い方の幅が広がることを期待している。まだ現段階ではオンライン授業は「一方通行」になってしまうことが課題であるが、いずれは「双方向」になるように環境整備を行っていきたい。</p>
武内教育長 職務代理者	<p>ICT の活用は期待できる部分も大きいですが、あくまで教育のツールのひとつであることを忘れてはならない。今後 ICT による教育が普及したとしても、顔を見て話すことや、表情を読み取る大切さを子どもたちに教えていく必要がある。タブレットは勉強に使用するだけではなく、友達との交流や様々な人との繋がり構築にも役立てることができるだろう。学習教材として利用するのみではなく、それを通じて何を学ぶかを大切に、非認知能力の向上を重要視して取り組みたい。</p>
岡田教育長	<p>個別学習の手段としては、ICT は非常に有効的であると考えている。また、「茨木っ子キャリアパスポート」の取組とも繋がるが、「どこでつまずいたか」「何が苦手か」等自分の学習の記録を残すというのは非常に重要なことであり、その様な面でもタブレットは有効活用できる。ICT の普及により、先生方の仕事も変化する可能性があるが、子どもたちのやる気を引き出し、様々な支援や補助を重点的に行っていただきたいと考えており、</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	<p>ICT との兼ね合いも今後探っていきたい。</p> <p>一斉授業についても、社会で必要なことを学ぶことができる非常に重要な機会であり、今後も大切にしていきたいと考えている。</p> <p>また、ICT の活用について、対応を間違えると、逆に教育格差を生むことも考えられる。教員の力量や、家庭での環境の差を含め、慎重に取り組んでいく必要がある。</p> <p>不登校について、「集団になじまない子どもたちの不登校」というパターンがあるが、そういった子どもたちにとって、ICT の活用は有効的手段と考えられる。しかし、「集団の中で嫌なことがあり不登校になった子どもたち」においては、むやみに「逃げ場」となる状況を作らないように、考えていかなければならない。</p> <p>私の見解としては、「ICT 人材育成」と「日常の教育に ICT を取り入れる」ことを同じこととして捉えることは、疑問に感じている。また、「GIGA スクール構想」の中で重要なことの一つは、「個別最適化」であると考えている。学校の集団で学ぶということは、非常に価値のあることであり、一方で、個別に学習する場合、それぞれの個性に応じて学習を進めることができる。ICT の活用に伴い、「集団」と「個別」のそれぞれ良い所を整理していく必要がある。</p>
福岡市長	<p>それでは、本案件については以上とさせていただきます。</p>
福岡市長	<p>4 (3) 中学校給食センターについて (協議案件)</p> <p>次に、協議案件の「中学校給食センターについて」、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">【中学校給食センターについて説明】</p>
福岡市長	<p>事務局から説明があった。各委員のみなさま、何か、ご意見等があればご発言をお願いします。</p>
堀村委員	<p>子どもたちや学校関係者はもちろん、多くの市民にとって価値のある施設になればよいと考えている。</p>
篠永委員	<p>基本方針1については、「食物アレルギーに対応するための施設や体制の整備」とあり、食物アレルギーのみでなく、宗教的に食べられない物がある子どもの場合についても、考えていく必要がある。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>基本方針2については、「中学生にふさわしい献立の実現」とあり、中学生になると、性別や、どんなクラブ活動をしているか等により、食べる量の差がかなりある。そういった視点でも適切な給食を作っていくということが、「きめ細やかな献立」として一つ重要なことと考えている。</p> <p>基本方針3については、「災害時の早期復旧、食材を含む救援物資や情報の中継地点機能の導入」とあり、水、ガス、電気それぞれについて、災害時の想定を十分に行い、課題を整理することが重要である。</p> <p>基本方針4については、「茨木市産や大阪府産等の地場産食材の積極的な使用」とあり、地産地消で茨木市の食材を積極的に用いるのはもちろんだが、他の地方の食べ物を排除するというのではなく、地方の名産の食材についても取り入れたいと考えている。</p>
片山委員	<p>中学生はクラブ活動も勉強も忙しく、配膳等について小学生と同じように行うということは難しい。子どもたちや学校の意見をしっかり取り入れて、計画を作っていきたい。</p>
武内教育長 職務代理者	<p>食事は空腹を満たすだけでなく、どんな人がどのような思いで作っているかを考えながら、食べるのが望ましい。中学校給食センターの設備を見学できたり、そこで食べることができたりしたら良いと思う。</p>
岡田教育長	<p>先ほどの意見にもあったが、中学生は時間的制約もあり、いかにスリム化して取り組むかが重要となり、十分に検討する必要がある。</p>
福岡市長	<p>小学校とどこまで同列に扱ったらよいかを考える必要があると感じる。先ほどの意見にもあったが、小学校は中学校よりも時間的余裕もあるように思うし、中学校については、より簡素化できるところは簡素化したらどうか。合理化を行いながら、進めていただきたいと思う。</p>
福岡市長	<p>5 その他</p> <p>行政が理想とする市民像と、実際の市民の方々の認識にずれを感じている。例えば、災害でいえば、自助・共助がまず大事となるが、思ったより行政と同じ認識を持っておられる市民の方が少ない。自治会加入率で言えば、共働きで入れない等の理由もあるだろうが、6割を切りつつある。教育の観点からのご意見をお聞かせ願いたい。</p>
岡田教育長	<p>子どもたちに対するアプローチとして、道徳の教科書等で説明するだけでなく、例えば、地域の方にゲストティーチャーとして来ていただいた</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	<p>り、地域の方との関わる機会を作ることが大切であると考えている。実際に中学生が地域の行事に参加する機会もあり、小学校の高学年から中学校の期間に、地域との関わりを多く持ち、一緒になって地域をつくるという意識を持ってもらうことが大切であると考えている。また、地震の時、地域の人と助け合った経験を持つ子もいるだろうし、そういった経験から得たものを、大人になっても忘れないように身につけていってほしい。また、地域学習の資料で、「わたしたちの茨木」というものがあるので、そこにも、地域との関わりについて学べる内容を充実させられるよう検討したい。</p> <p>6 閉会</p> <p>これをもって、第1回総合教育会議を終了する。</p>